

勝負

2025. 2. 14

本を出版したおかげで、読んでくださった方から、反応をいただくことがある。長い文面の中に、こんな一節があった。

最近は文章表現する時に、写真や図表を入れたり、文字数を少なくして箇条書きを多用したりしますが、高澤先生は文章だけで勝負して、これだけ読み手を惹きつけるのですからさすがだと思います。

なるほどそうか。いろいろな方からのコメントによって、自分がやっていることの価値や自分の文章の特徴などがわかるようになってきた。意外と、自分ことは自分ではわからないものである。「文章だけで勝負」というところが特に心に残った。

小学校の校長になり、学校だよりを出していた。行事の様子を中心に、写真を入れたりしていた。今だから正直に言うと、楽しくはなかった。高校の校長になり、また学校だよりを出すようになった。こちらにも写真を入れていた。やはり楽しくはなかった。半ば義務感、使命感で出していた。どうも写真を選び、貼り付け、レイアウトを考えたりすることに喜びを見出すことができずにいた。

どうにもこうにも我慢できなくなったのか、学校だよりの他に「校長室だより～燐燐～」を毎日出すようになった。ずらずらと文章が並ぶだけのものである。挿絵の一つもない。一番、見たくない、読みたくないパターンであろう。だが、つくる方としては楽である。そして、楽しい。

したがって、文章で勝負しようなどという気はなかった。一番、楽に続けられるのが、文章のみのエッセイだったというだけである。なおかつ、思いを届けることができる。

中学校の校長となった。また学校だよりをつくるようになるだろうと覚悟していた。だが、学校だよりが出ている形跡がない。しばらくしてわかった。学年だよりが各学年から出ており、これが充実した内容だった。とても学校だよりが入り込む余地はなかった。

それではと、何事もなかつたように「校長室だより～燐燐～」を継続することにした。相変わらず、文章だらけのものである。たまに写真を入れくなることはある。だが、やらない。あくまでも、文章のみである。結局、これが一番よい。そして、続けることができる。

たまに、他の学校のホームページを拝見すると、学校だよりやブログの記事がある。校長先生が作成したものであろう。必ず写真が入っている。その方が、生き生きとして内容もわかりやすくなる。気を遣って、家人の学校のものも見る。そこには、とても私にはできない芸当のブログが載っている。実に彼女らしい。

これからも、文章だけで生きていこうと思う。それが私らしい道である。決して勝負する気はないが、結果的に勝負できたら、それはそれでよい。